



串川中学校だより

令和8年度
5月号

目には青葉 山ホトトギス 初ガツオ

校長 内村 昭広

江戸時代の俳人、山口素堂の句です。この季節の代表的な俳句として有名です。この句の背景を少し説明します。江戸時代には「女房を 質に入れても 初ガツオ」という川柳が生まれるほど高価な初物を食べる習慣が尊ばれていました。表題の句を現代的に私流に読み解くと「青葉がエネルギーに満ち満ちて目に映り、ホトトギスの澄んだ鳴き声が聞こえ、みずみずしい鰯を味わえる、この季節すばらしい」陰から陽に移り変わる季節が視覚、聴覚、味覚を刺激するこんな解釈もあながち間違いではないかと思えます。この句のように季節をめぐる余裕が大切ですね。



さて、次にあげる日付や場所から何が連想されるでしょうか。

4月1日茨城県 4月18日長野県 4月20日三陸沖 4月27日十勝地方
5月2日和歌山県 5月14日岩手県 5月15日宮城県

答えは震度4以上を記録した地震です。日本列島は環太平洋造山帯の上に位置し、また中緯度であるため自然の影響を受けやすい地域です。4月から地震の連鎖が広域で発生しており、とても心配になります。学校では4月に集団下校訓練、5月に避難訓練及び一年生のみではありますが引き渡し訓練を行いました。関東大震災から100年がすでに経過してしまいます。改めて「その時」への備えが問われています。正常性バイアス(都合の悪いことを無視してしまう心の動き)が働いて、「どうせこないだろう」「なんとかなる」「自分だけは大丈夫だ」と安易に考えてしまいますが、家にいるとき、外出しているとき、それぞれの場合にどうするのか、しっかり考えておくことが必要です。ちなみに相模原市内で震度5強以上の地震が発生した場合は、学校は休校となり、授業中であれば家族に引き渡しとなります。災害が発生した場合、「自助 共助 公助」の3つの支えが被害を最小限に抑えるといわれています。自助とは「自分の身は自分で守る」、共助とは「家族、近所、地域の人と助け合う」、公助とは消防や警察・自衛隊などからの公的支援を指します。東日本大震災や能登半島地震では道路が分断され交通機関が麻痺し、公的な支援が被災地に届くまでかなりの時間を要しました。震度4以上の地震続発している現状を考えると自助と共助の重要性が高まっているのではないかと思います。キーポイントの共助がうまく機能するためには、家族や近所・地域の人たちとどんな関係を築いていけばいいのか、そのためには普段からどんな気持ちでどんなことに気をつけていけばいいのか、大人だけでなく地域で生活する生徒の皆さんにも自分事としてよく考えてほしいことです。

6月の主な行事

1日(月)	テスト前部活動停止期間始
2日(火)	学校評議委員会
3日(水)	生徒総会
4日(木)	耳鼻科検診
8日(月)	定期テスト1日目
9日(火)	定期テスト2日目
10日(水)	定期テスト3日目
12日(金)	修学旅行荷物積込
14日(日)	修学旅行1日目
15日(月)	修学旅行2日目
16日(火)	修学旅行3日目
17日(水)	修学旅行3年生振替休業
18日(木)	生徒委員会
19日(金)	特別委員会
24日(水)	若あゆ校外学習
25日(木)	若あゆ校外学習
26日(金)	生徒評議会
30日(火)	臨時特別委員会